

連携協定イベント「オール茨城大学招待デー」の強化と実施

(自治体等側)

株式会社フットボールクラブ

水戸ホーリーホック

代表取締役社長

沼田 邦郎

(大学側)

人文社会科学部 教授

高橋 修

連携先

株式会社フットボールクラブ

水戸ホーリーホック

プロジェクト参加者

高橋 修 (茨城大学人文社会科学部・教授
担当：企画立案・全体総括)

百武 慶文 (茨城大学理工学研究科理学野・
准教授 担当：事業担当責任
者・企画立案・全体総括)

藤縄 明彦 (茨城大学理工学研究科理学野・
教授 担当：企画立案・実施)

伊藤 孝 (茨城大学教育学部・教授 担当：
企画立案・実施)

沼田 邦郎 (株式会社フットボールクラブ水
戸ホーリーホック・代表取締役
社長 担当：事業担当責任者・
企画立案・調整・総括)

市原 侑祐 (株式会社フットボールクラブ水
戸ホーリーホック・経営企画
室・室長補佐 担当：企画立案・
調整)

加藤 健一 (株式会社フットボールクラブ水
戸ホーリーホック・事業チー
ム・広報担当 担当：企画立案・
調整)

古源 慶太 (株式会社フットボールクラブ水
戸ホーリーホック・事業チー
ム・広報担当 担当：企画立案・
調整)

プロジェクトの実施概要

① プロジェクトの目的

茨城大学と株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホック（水戸ホーリーホック）は平成25年に連携協力に関する協定を結んでおり、地域に密着したイベントを共同で実施してきた。水戸ホーリーホックは地域密着度の高いクラブであり、クラブの地域における活動を支援することは、茨城大学が掲げる地域に貢献する人材育成の観点からも重要なものであると考える。

また、茨城大学と水戸ホーリーホックが連携協定を結んでから7年ほど経つが、この間に多くの教職員と学生が連携協定事業を通して有機的に結びつきを深めてきた。このプロジェクトのもう一つの側面は、水戸ホーリーホックをキーワードにした学内組織の横糸として、教職員・学生・OBOGの「ネットワーク」を強化し、各学部が実施する縦糸の地域連携集団とは異なるネットワークを構築することにある。このような横糸の活動によって、学内における相互理解を深め、お互いの専門性を活かした地域連携活動を行う土壌を形成できると考える。

② 連携の方法及び具体的な活動計画

今年度の事業としては、6月22日（土）に

ケーズデンキスタジアム水戸で開催されるサッカーJ2 第19節の試合を学生および教職員で観戦するイベント「オール茨城大学招待デー（以下招待デー）」を計画した。このイベントはクラブに観戦チケットを無償で提供してもらうことで実現しており、茨城大学の事業負担としては参加者の大学からスタジアムまでの送迎をサポートする部分である。招待デーは今回で7回目となる連携事業の中心イベントであり、今年度はスタジアムでの教育イベントを付加することで、学生に地域に密着するクラブの活動内容について体感してもらいたいと考えている。特に、クラブの運営、広報などの情報をクラブから学生に提供してもらい、学生のインターンシップやiOPへの意識づけを行いたい。また、茨大OBのインターンシップ体験談や、ホーリーホック選手によるキャリア形成についての講話も企画したいと考えている。

オール茨城大学招待デーの内容、特に教育イベントの内容については、参加した学生からアンケートをとるなどして、今後の連携協定事業へつなげるようにしたい。また、招待デーや教育イベントの様子については、後日ビラを作成・配布して参加しなかった学生や来年度の新入生にも周知するなどし、事業の成果報告を行う。

③ 期待される成果

短期的な成果としては、学内での広報活動および招待デーイベント参加を通して、水戸市に水戸ホーリーホックというサッカーのクラブチームがあることを知ってもらうことである。特に、地域の住民が一体となって応援する様子に触れることで、学生および教職員の地域貢献の意欲を高める効果が期待される。

長期的な成果としては、サッカーを通じた学内外での「ネットワーク」づくりである。大学では学部や部署が異なれば交流する機会がほとんどなくなるが、サッカーというスポーツを共通項として持ち出すことにより、学

部や部署の枠組みを超えた人材交流が可能となる。7年間の活動によって、このネットワークはある程度構築されているが、このイベントを継続実施することで、より多くの学生や教職員が参画し、交流が盛んになることを期待している。

プロジェクトの実施成果

① 活動実績

2019年6月22日（土）に「オール茨城大学招待デー」を実施した。これは、サッカーJ2リーグの水戸ホーリーホックと横浜FCの対戦（18時キックオフ）を、水戸市小吹町にあるケーズデンキスタジアムで観戦する、というイベントである。イベント実施に当たって、水戸ホーリーホックの加藤氏、市原氏、古源氏、茨城大学教員の高橋、藤縄、伊藤、百武で4回ほど事前打ち合わせを行い、活動の広報と詳細を議論した。

広報活動としては、6月上旬より6月21日まで、「パネル展示2019」を図書館1Fロビーで実施した。パネルの設営についてはケーズデンキスタジアムで場内放送を担当しているアナウンスステーションの学生が積極的に手伝ってくれた（図1）。準備中には他のイベントで図書館を利用していた一般の方々からも声をかけられるなど、学内外での周知活動となった。



図1 パネル展示の様子

6月17日から21日までは、お昼休みの時間帯に水戸キャンパス生協前で、招待デーのチラシとチケット配布を行った(図2)。水戸ホーリーホックのマスコットキャラクターであるホーリーくんも参加して、広報活動を盛り上げてくれた。チームの成績が絶好調であったこともあって、多くの学生・教職員がチケットを受け取っていった。(258枚配布)この広報活動についても職員やアナウンスステーションの学生が手伝ってくれた。



図3 芝生席で記念撮影

連携記念 オール茨城大学 招待デー
 茨大生はもちろん、卒業生、教職員、ご家族、お友達も全額OK!

明治安田生命 サッカーJ2リーグ
2019.6.22(土) 18:00 キックオフ 於 ケーズデンキスタジアム水戸
水戸ホーリーホック vs 横浜FC
 の無料招待券(ホーム自由席)を配布しています。

無料招待券は、人文高橋研究室(C303)、理療嶋明彦研究室(Q211)、教育伊藤孝(A301)、理百武慶文研究室(E406)、社会連携センター1F受付窓口、図書館2F受付カウンター、大学生協サービスショップで配布中! 6月17~21日の昼休み時間中には、生協前ブースでも配布の予定です。

試合当日の予定

茨大からスタジアムまでバスで一緒に移動の方

15:00 集合(大学本部前) → 15:10 茨大正門前出発 → 15:40 スタジアム到着
 → 入場して席を確保(※「ホーム自由席」に入場しむかぬを要約) → 16:10 選手バスを出発

① 芝生席で熱く応援 球場に並び、芝生席へ、茨大ホーリーネットの応援のもと、声援で選手を応援しよう!
 ② 座席でじっくり観戦 球場に並び、座席へ、ゆったり、じっくりサッカー観戦!

ここから試合終了まで全員で

16:30 記念撮影 ※ゴール裏芝生席に全員集合!(雨天時は中止の場合あり)
 16:45 教育イベント クラブスタッフによるインターンシップなどの紹介、※による体験談などを予定
 17:30 ウェルカムフラッグ陣に参加し、試合前のピッチへ!
 ※試合前のピッチ上で、入場する選手を茨大生が迎えます! ホーム側(ランデブー)に全員集合!
 席の中わらわらい観戦を覚えてきてください。再入場にはチケットの半券が必要なので、必ず携行してください。
 18:00 キックオフ-19:55 試合終了 ※無料の場合、ラインダンスあり。
 20:20 スタジアム発-20:50 茨大生帰省・解散
 ※ 観戦は「ホーム自由席」であればどこでもOKです。ただし記念撮影ウェルカムフラッグ陣には全員参加してください。
 ※ 「ホーム自由席」には座席がありません。雨天の場合、各自レインコート等を用意してください。なお雨天の際は観戦は中止されています。

図2 招待デーチラシ

招待デー当日は午後3時に水戸キャンパスよりバスで小吹町のケーズデンキスタジアムへ出発した。バス利用者は43名で、大半は学部学生が利用した。スタジアムでは教員とクラブスタッフで参加者を誘導した。まずは座席を確保して記念撮影を行った(図3)。

記念撮影後は教育イベントを実施した。今回は水戸ホーリーホックの地域貢献活動およびインターンシップ状況について、市原氏から説明を受けた(図4)。サッカーの試合を開催するにあたって、裏ではどのような活動がなされているかを具体的に話してもらい、スポーツイベントに携わる仕事の詳細を分かりやすく説明してもらった。



図4 水戸ホーリーホックの活動説明

続いて茨大OBの白石達希君とOGの小林かなさんから、具体的なインターンシップ活動の報告があった。参加した学生は質疑応答の際にインターンシップについて熱心に質問をしており、アンケートでもインターンシップを早い段階でしっかりと考えたいと書いた学生もいることから、意識づけの動機として十分な成果があったと考えている。最後に浜崎拓磨選手と近藤慎吾選手がサプライズで登場

し、参加者と一緒に記念撮影を行った(図5)。



図5 教育イベント記念撮影

教育イベント後は、試合開始前にピッチに入り選手を迎える「ウェルカムフラッグ隊」として参加した。その後は試合をじっくりと観戦し、バスで大学までの帰路についた。なお、今回は招待デー初のナイター観戦であった(図6)。



図6 ナイター観戦

帰路のバス中でアンケートを実施したが、参加者全員が満足しており、今後のインターンシップに役立つとの回答が多く見られた。また、サッカーの試合そのものについても大いに興味を持ち、また参加したいとの回答が多かった。

② プロジェクトの達成状況

今回のプロジェクトを通して、ホーリーホックを身近に感じてもらい、またインターンシップの選択肢としても興味を持つ学生がいたと思う。その点では短期的な成果は着実にあがったと考えられる。

長期的な部分では、今回参加した学生が今後もこのような地域活動に関するイベントに参加するかが指標となるが、それは来年度にアンケートをとるなどして測りたい。少なくとも多くの教職員が率先してことイベントを盛り上げてくれたことは確実であり、大学内の横糸としてのネットワークづくりは強化されたと思う。

今回の活動内容についてはチラシを作成しており、生協のテーブルにA5パネルを置くなどして学内で活動報告を実施する。

③ 今後の計画と課題

今後の計画としては、ホーリーホックとのインターンシップをどのように強化するかが挙げられる。ホーリーホックは地域の企業と数多くスポンサー契約を結んでおり、地域の企業が抱える課題などもよく理解していると思われる。ここに茨城大学の学生が関わることで、地域の課題をあぶりだし解決する機運を高めるような流れを茨城大学で模索できればと思案している。